

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ⑥その他

##### 《理工農系》

#### ●首都大学東京理工学研究科生命科学専攻

##### 「企画評価力を備えた創造的生命研究者の育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

3つの科目、＜企画経営演習＞＜国際実践演習＞＜研究評価演習＞を新設した。どの科目も大学院生の主体的取組を前提にした科目であったため、1/3程度の大学院生は、自分でどう考え、行動していいのか、当初、戸惑いの方が大きかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

一部の学生は、受け身的な学習力や研究力は身に付けてきていても、主体的な学習力や研究力がほとんどなく、主体的にといわれても、何をどうしたらいいのか、全く分からないような状況であった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

まだ主体的に考えることや実行することができない学生については、個別に相談に応じ、他の大学院生の実施例がホームページに報告されているので、それを参考にするように指導した。また、企画や実行は、学生グループで実施することを原則としたので、グループの中で一緒に活動することにより、主体的な企画力・実行力を身に付けることを促した。基礎的な体験不足で、十分な成果が上がったとは言い難いが、一定の成果は上がった。